

## ○増田氏

初めまして、エルザタワー55の管理組合の理事長と自治会長とを兼ねております増田といいます。本日はよろしく申し上げます。

自分は、生まれも育ちも川口です。御存じの方がいるかどうかわかりませんが、今のミエル、もとのダイエー、その前が忠実屋さんですか、あそこにあった「マスセイ」という鋳物屋の息子で、川口駅の西口の方にリプレができたときに1回、結婚と同時にリプレに越しまして、その後、エルザタワーができるというので、エルザタワーの方に越したという感じです。だから、もともと私は川口の住人なんです。

新住民と旧住民、例えば新住民は例えばマル商の方と考えて、旧住民というのはもともと地元の方というふうに考えると、新住民というのが、自分みたいに、もともと川口に住んでいて、近くにマンションができたから越すというのは、多分この川口の場合ですと、まれだと思います。やはり交通の便ですとか、やはり要は都内ですと、今は安くなっていますけども、都内ですと、やはり川を1本越えるだけで値段が違うんですね。大体、川口の方が安いとか、あとは、これは余談ですけど、うちのマンションに特に多かったのが、男性陣が飲んでタクシーで帰ろうとすると、浦和とか今のさいたま市あたりですか、帰ると相当な値段がかかるらしいので、それが川口だと何か安くすんでいいとか、というわけで川口じゃない方が多いということです。

そうすると、旧住民、地元の方、町会の方と考えると、やはり愛着が全然違うんですね。やはり旧住民というのはもともと町会で生まれ育って、当然のことながら町会の活動をやっていこう、愛着もありますし、みずから進んでやる方は輪番制の中でやる方がおられて、当然、その中でも地元に住んでいる方というか、もともと皆さんにお世話になっている方というので、進んでいろんな活動をされていると。

そして、新住民というかマンションの方になると、当然、愛着がないんですね。自分のマンションだけというか、要は自分だけよければという方がどうしても多いんですよ。これは私見なんですけども、それは、高さが高いマンションの方が、多分より強いと思います。自分さえよければというか、自分のマンションでもあったんですけども、自分がそういうことをやるためにマンションに越してきたんじゃないと、悠々自適に人とかかわりたくないんだと。

自治会の活動だったら仕方ないかなと思うんですけども、管理組合というのは、入居するときに管理規約にハンコを押して入ってきているわけですね。なのに、結局、輪番制の理事になったとしても、「私はそういうことをやるために入ってきたんじゃない。」と堂々と言いますからね。「でも、あなた、これにハンコを押していますよ、というか、ハンコを押さないとこれ入ってこれないんですから、これはルールというか、法律なんですよ。」と言っても、結局、「私はそういうために入ってきたんじゃない。」と、結局、かかわりたくないんだということをやはり平気で言う方がおりますね。

うちのマンションの場合は、最初、自治会がなかったんですけども、市との交渉

というか、要は川口市へのお願いですとか、いろんなことをするためと、うちのマンションは650世帯で約1,800人住んでいますから、古紙回収とか、やはりばかにならないですよ。今では、約200万円ぐらいですか、年間が入ってきますので、それを自治会費として使えるということで、自治会を設立しました。その当時は、私の周りの自治会長さんが運営していたんですけども、その当時、やはり皆さんお子さんも多いですし、何かやろうということで、自治会活動が割に皆さん盛んだったんですね。お祭りとか、マンションのためのことをやっていたんですけども、やはりだんだん口は出すけど手を出さない。汗をかかなくなってくるわけです。

何でやらないんだと文句は言うけど、じゃやってくださいと言うと、上の方で全然参加されない方がふえてきて、エルザ祭りを何回かやっているうちに、結局、特定の方しかお手伝いさんが集まらなくて、それも公募して集まるような状態じゃなく、毎年毎年、同じ人をお願いしてやってくださいということで、ようやくできるというか、開催されることが強くなってきて、やはりある年に、結局、毎年、私たちは楽しいんですけども、自分たちだけが運営していて、毎年同じ人たちだけが参加というか、おられると。変なんじゃないというか、何で自分たちだけこんな苦勞をするのか、自分たちもたまには参加する方で楽しみたいよという意見が大分多くなってきて、じゃ1回中止して見直してみようかというので、今、中止しているような現状です。

それは、やはりほかのマンションに聞いてみても、この間、お隣の32の方が防災フェスティバルというのをやったんですけど、やはりそれも同じで、特定の人たちによりやくお願いして集まっているような状態で、公募とかしてもやはり集まらない。何か言うと、やはり自分たちはそのためにこのマンションに越してきたんじゃないという方がやはり非常に多いのが実情ですね。

それをほかのマンション、自分のところはダイキョーさんですけども、ほかのハセコーさんですとかにいろいろと聞いても、やはりその傾向が今はどこも強いみたいです。特に、新しいマンションほど強いみたいです。築20年とかのようなマンションですと、逆にそれはないみたいです。

やはりそういった中で、私が今考えていて、一応住人にアンケートをとったりもしているんですけども、このままで自治会はいいのかということで、今は少しずつ、エルザ55の場合は地元は元郷2丁目町会なんで、たまたま2丁目町会の今の町会長とは昔から縁がありまして、今は少しずつ地元町会の方へ参加することを模索している最中です。

ただ、御存じの方がいるかどうかわからないんですけども、55が建ったときというのは地元の住人の反対がすごかったんですね。ですから、何で今さら下におりてるんだ、地元に入り込んでくるんだという、やはりそれがちょっと、これは失礼な言い方なんですけど、年輩の方が非常に強いんですね。若いというか、四、五十とか、それ以下の方はそういう思いは余りないんですけど、年輩の方がそういう今さら何でお

りてくるんだということで、いきなりはそれは無理でしょうということで、時間というか、少しずつ入り込んでいくイベント、それはお祭りであったり、地区の体育祭がありますので、そういうこととか盆踊りですとか、あとは祭りですか、あと子供会ですとか、少しずつ入り込んでいくしかないかなというのが今のところの現状ですね。

マンションなんかの、あるいは他のマンション内でも同じでしょうが、交流なんですけれども、どこの町会も同じなんでしょうね、やはり子どもを介してが一番最初ですね。小さい子どもがいれば、公園で朝とか昼とか遊んでいて、どこに住んでいるのとか、どこなのという形で交流が生まれる。また、幼稚園であれば、幼稚園の仲間といますか、できますし、それが特に公立の地元の小学校に行かせていけば、だれだれさん、どこの部屋なのということで交流が生まれますけれども、それ以外ですと、極端な話、同じ階でも生活時間帯、つまり、朝、自分が会社へ行く時間帯、戻ってくる時間帯、それが全く違うと、本当に極論を言っちゃうと、1年間で1回会うか会わないかでして、同じ12世帯とか10数世帯、ここは12世帯ですけども、本当に1年間全く会わない方っていますよ。

ただ、隣のうちなんかでも、やはり生活時間帯が違うと全然会わないんですけれども、かすかに音とか聞こえてきますから、あっ、いるんだなとかわかりますが、全然会わないときは全然会わないですね。それはやはり交流といっても先ほど言ったような祭りですとか、そういう子どもを介しての交流がない限りはそういう祭りしかないのか、祭りとかイベントですね、要は何かやってやるしかないのかなというふうには思っていますけれども、そうするとやはり何かやるといってもお手伝いさんがいないとなると、もう仕方ないので、極端なことを言うと、最低の人数でやって、あとはお金を出してイベント会社に任せるしかないかなと。そこまでしてやるのかどうかという意見もありますけれども、やはり交流ということであれば、そういうことでやっていくしかないのかなというふうには思っていますね。

あと、下の方に書いてある、これからのことというか、市議さんとか市長さんとかそういうことではなく、多分、今までの町会というのは、その町会に必ず青年部会ですとか、何かいろんな開催する部隊があって、それでだんだん歴任されてきて、ずっときて最後に町会長をやられるというか、自営業の方であったり、退職された方が最後に町会長をやられるというのがほとんどだと思えますけども、マンションの場合の自治会というのは逆にそれではないですね。

もちろん中には立候補等で、あるいは推薦等で、そういう方がなっている場合もありますけども、私も半自営、実際に埼玉県に加須市の方に毎日通っていますけど、半自営というかサラリーマンみたいなものですから、これからのマンションの自治会というのは、自治会長さんは輪番制とか抽選で、いきなりサラリーマンの方がなられるケースというのが多くなると思います。

だから、これから特にマンションとかの数が増えて、マンションができて自治会

自体が要は町会に属していればいいんですけれども、独立のマンションの場合ですと、多分サラリーマンの方がこれからふえてくると思うので、今、いろいろと町会の行事というか、市で開催される町会関係の会議などの行事ですが、ほとんど平日の昼間が多いんですよ。そうすると、やはりどうしてもそのために休めないというか、有休がとれないとか、参加できないというのが、多分これから要望というんですか、そういうのがふえてくると思います。私もだからできるだけ出るようにはしますけれども、やはり仕事があるので難しいですね。毎回でなく半分とか3分の1ぐらいは出るようにしますが、やはり、それが難しいというのが現状ですので、これからそういう方がふえてくるとなると、どうしてもやはりその辺のことを考えていただきたいなと思います。

やはり普通というか一般町会であっても、話を聞くと、これからは多分そういう傾向になるだろう。やはり高齢化へ向かって、どうしても若い方が、有名な方の御子息さんとか自営業をやっている方が町会長になればそういうことはないんでしょうけども、やはりサラリーマンの方がふえてくるとなると、少しその辺もだんだん考えていけないと難しいのかなと思います。

あとは、書いてあった新住民の市政への関心の喚起についてとか、その辺なんですけれども、やはり本来、市のイベントであったり町会のイベントであったり、要はお祭りとかイベントとか、イベントを含めてSKIPシティですとか、キュポ・ラでありますとか、そこで何かいろいろと行事をやること、イベントをやることに対しての参加がメインだと思うんですね。今はいろいろと川口市さんでもホームページですとか新聞ですか、毎月一日に配布される広報でいろいろとPRはされていると思いますけれども、これは私見なのかもしれませんが、川口駅に行くと、よくそういうのが掲示してあったりなんかしてわかるんですね。だけでも、私が見てないだけかもしれませんが、川口元郷駅って何も掲示がないんですよ。

やはり川口元郷駅を利用される方が増えてきていますので、実際に川口駅の方のイベントであっても、何日にこういうのを開催しますよとか、そういうのがあった方がいいのかなと。多分余り広報ですとかホームページを見ている方は少ないと思うので、やはり一般の新しい住人により喚起というか、こういうのをやっているよと知らせれば、そういうのも1つの手かなというふうには思っています。

大体、このようなところですが、ありがとうございました。

#### ○金井部会長

では、早速ですが、皆さんからいろいろ御意見、御質問をいただければと思います。

#### ○池田委員

私、一番身近にエルザにいろいろ交流だとか、いろんな形でおつき合いをしたいと

ということで、建ってから丸8年間ぐらいやっているんですが、理事さんというのは80名ぐらいいたしかいらっしやると思いましたが、理事さん、役員さんというんですか、何か大きな決まりがあるときに、役員さんというのは何人ぐらいいるんですか。

○増田氏

今、24人ですね。

○池田委員

それが決まるのは輪番制ですか。

○増田氏

輪番制、あるいは立候補ですね。私は輪番制じゃなく、立候補しました。自治会もそうなんですが、私は昔から口を出すんだったら手を出せと、自分がやって、でないと言えない。だから、陰口というか、やってないでぐうたら言うのは嫌いなので、まずやって、自分のやりたいことをやるじゃないけれども、というのが主義なので、自分は立候補でした。輪番制も含めて、今、大体24人です、理事は。

それはあくまでも管理組合であって、自治会が別の組織だったんですが、やはり自治会の方は応募しても、まるっきりやる方がおられないので、今、少しずつ規約を変えて、理事会の中に自治会があるじゃないけれども、下部組織にして、会計とかいろんな要職、理事会の方が兼ねるとい形にしています。他のマンションは、もともと自治会の規約がもともとあれば、管理組合と自治会で別に輪番制で組んでいるところもあります。本来はそっちの方がいいのかなと思います。

やはりこれは市がかかわることかどうかわからないんですけれども、できれば今後できる新しいマンションですか、自治会を独立でつくるか、地元の町会に入るかということ流した方がいいと思うんです。それが書いてないので、結局、マンションだって自治会に属さなくていいんだと思ってる方もおられる。地元でも1カ所あったんですけれども、何で町会に入らなきゃいけないのと、もめたところもあるらしいので、最初からそういうのを規約かなにかで、だから独立か地元町会に属しますと、そうすると地元町会に属した場合は町会費として幾ら徴収されますということを多分流した方がいいと思うんですよね、もめないためにも。

○宮原委員

確かに、自治会の町会費に関しては、この会ではなくて、市議をやっているときに、時々住民と話すときには出ていたんですよ。別にマンションでなくても、普通のマンションのない町会でも、こっちのアパートの住人には町会費を取っているのに、こっちのアパートは取ってないという不公平さが出ていて、やはり不動産屋さんをお願い

して、規約に入れてしまったらどうかという話は割と出てきます。

○増田氏

出てきますか。

○宮原委員

はい。取られている方のアパートの住人からすると、そういう話はやっぱり出てきます。

○増田氏

多分不公平感が出てくると思いますので、これからできる集合型は、多分、市として情報というか、出した方がいいとは思うんですよね。でないと、後々トラブルのもとになりますので。

○宮原委員

1つ質問なんですけど、今はエルザの建物は元郷2丁目にあるんですか。

○増田氏

元郷2丁目ですが、55とは独立した自治会です。

○宮原委員

自治会ですね。じゃ、町会費はもちろん取っているのですか。

○増田氏

今のところは町会費は取っていません。というのは、古紙回収の代金が、先ほど言ったように年間大体約200万円ですか、ありますので、運営の中で賄えますので、今は取ることは考えていません。

○神尾委員

古紙を集めたりするのは、誰がやっているんですか。

○増田氏

それは管理会社というか、管理会社の掃除会社ですね。エルザの場合は、各階にダムウエーってごみ捨てがあるんですよ。だから、24時間出せるというか、それを2日に1回ぐらいですかね、回収しています。本来は厳密から言うと、結局それは管理会社がやっているから、それは管理組合のお金じゃないのという議論はあるんですけど

れども、そうしたら自治会がおかしくなっちゃうので、とりあえず今は自治会のお金としていきます。

○神尾委員

ごみとか古紙回収のときに、だれも手伝いに来ないで、自分がそこにぼんと置いていくだけで、あとは全然タッチしないんですね。

○増田氏

そうですね。だから、都市型のマンションと同じで、ごみ室に置いておくだけで、もちろん分別はしますよ、瓶とか缶とか新聞ですとか生ごみは分別しますが、あとそれを回収とか、そういうのをやってくれるのは掃除会社です。

○宮原委員

今、大抵のマンションはそれを売りにしていますよね。

○増田氏

そうですね、24時間出せるというのが。1階に持って行って出すんじゃなく、フロアで24時間出せるというのをやはり売りにしている。大体、タワー型のマンションはそれがほとんどですよ。

○宮原委員

現実的に無理ですものね、大きなごみを抱えて55階からというのは。エレベーターが限られていますから。

○増田氏

幾ら業務用とかが別にあったとしても、それは大変ですよ。でも、タワー型じゃなくても、低層型と言っていいのか、そういうマンションでもそれは持っていくのは大変みたいですよ。何かエレベーターの数がない、逆に。タワー型のマンションは逆に数があるんですよ、計算されていますから、フロアごとに来るとか。でも、低層型マンションの方が、逆にそれはエレベーターの数が少ないので、朝の時間帯、持って出にくいとかという話をよく聞きますね。

○神尾委員

例えば、マンションの入り口から駅までは徒歩何分なんだけれども、自分の階からエレベーターを待って下におりるまで、10分以上待っていたりするなんていうことがありますけど。

○増田氏

うちの場合はないですね。ちゃんと高層用、低層用、中層用と分けられていますので、低層用が一応3台、中層用2台、高層用2台ありますので、一応そのへんは計算されていますので、10分待つということはないんですが、かえって西口のリプレに住んでいるときの方が全然時間がかかりましたね。23階で結局2台しかないですから、リプレのときには。そうすると、やはり今言われたように全然来ない。かえって、あのときは6階に住んでいたもので、階段でおりました方が早いというか。

○池田委員

先ほど理事長さんが、このマンションに住んでいるのはそういう人とのつき合いがうっとうしいので、あえて自分は自分の生活を守るためにここに住んでいるんだと、そういう方がおられると。極端な話、輪番制で役をお願いしても、そういうためにここに住んでいるわけではないので、自分の生活をきちっと守りたいんだという形で、今、理事長さんが実際いろんな活動を計画していますが、一番、世代別に、変な話、60代、お子さんがいる40代、それからマンションだとそんな若い人はいないような気がします、その辺のところ、世代別の層というのはどのぐらいの割合でおられるんですか。

○増田氏

多分、私ぐらいの世代が意外と多いと思うんですよ。

○池田委員

40代から50代ぐらいですか。

○増田氏

40代、50代、30代後半が、意外と多いです。

○池田委員

ということは、お子さんが1人か2人いるような。

○増田氏

この人は何をやっていらっしゃる方かなと、しょっちゅう昼間でもいる方とか、ベンツとか2台持って乗っていたり。だからIT関係の方ですとか、かかわり持ちたくないという方は逆に年輩の方のほうが多いですね。若いというか、自分たちと同じとか、ちょっと上の方だと、逆にかかわり持ちたくないというか、忙しくてできないと

いう形ですね。じゃ、今は忙しいんですかと、忙しいと言う。じゃ、来年とか再来年になったら、今はとりあえず今回は輪番制から外しますけども、また二、三年後に、じゃないと結局ずっと回っちゃいますので、ちゃんと注意事項に書いて、二、三年後に戻しますよと、それでよろしいですねというか、それかあとできるときになったら言ってくださいとか、今はそういうやり方にしていますね。

あとは、今、自治会活動とか理事会活動がほとんど何か会議をやっているというふうに思われているんです、昼間というか、帰ってきてから。それが、夜帰りが遅いので参加できないとか言うんですけども、今はほとんどメールでやっているんですね。実際に会って話すことも大事なんですけど、やはり皆さん忙しいので、事前打ち合わせはほとんど今はメールでやっています。その方が、結局、帰りが遅くても自分の好きな時間で時間に関係なしにメールでできる、結局意見を聞いて、自分なりの意見ではこうじゃないとか、それは賛成です、反対ですとか言えますので、下打ち合わせというのはほとんど理事会の中の各委員会なんかはメールでやっちゃっています。

それで、最終的なものを理事会で話すとか、今回の理事会のポイント等、理事会でこういうことを話すよとか、こういう議題でいいですねとか、極端な場合、自治会ですと、会合を開くのが面倒くさいときはメールで賛成、反対、それでもうやっちゃっています。

今、あれは正式名称は国土交通省の管理規約ですかね、その中でも、電子媒体にて理事会が採決とか、管理組合の総会の採決、電子媒体にてオーケーというのができていますので、それで理事会を開催しちゃっているマンションもあります。

#### ○落合委員

川口市には、いわゆる町会がありまして、居住者はいわば自動的に入り、町会の活動も見えているんですけども、それに対して、マンションの自治会または、管理組合は具体的には、どんなような目的で、どのような活動をされているのでしょうか。御苦労されていることもお聞かせ下さい。

#### ○増田氏

そこはやはり管理組合と自治会を分けなきゃいけませんね。運営はやはり管理組合で、お祭りとかイベントとか、それについてはやはり自治会なんですよ。そういったものは町会も同じだと思うんですけども、やはり自治会というのは地域住民のためのことを、というか、住んでいる人のためのことを、地域住民とどうかかわるかとか、要は住んでいる人のためのことなので、お祭りですとか、何をやりましょうですとか、あと募金活動が始まりますよとか、あと地域でとか市でこういうイベント等がありますよというのをお知らせしたりはしています。

今は、防災に力を入れています。自分は、たまたま新潟の中越地震を経験している

んですよ。たまたまあの日に向こうへ行っていたんです。それも家族で。あの夕方の時間、どかんと地震が来て、全部とまっちゃって、結局、体育館に避難してくださいというようなことで避難していったんですが、寒いわ狭いわ何もないわというか、校庭に車をとめまして、車の中にいた方がエンジンかけっ放しで温かいし、ラジオとかで情報が入るから、あとそれなりに横になれますので、結局、毛布とかも自分たちが行った段階で全然ないんです、何も。車の中で暮らしたりしていたんですけども、行政がどうのこうのというんじゃなく、多分これだけの住人というか、マンションに入って川口に住んでいると、地震があったりすると、絶対何も多分できません。できないって、行政が多分追いつかない、何もできないので追いつかない状態。

そういったときに、じゃマンションとして何ができるかということで、今、独自に防災倉庫を2棟つくって、なおかつ水がまず第一なので、その前に住人にアンケートをとって、1日分の水と食料を希望者に全部配っちゃいました、とりあえず。選択して、水1.5リットルとアルファ米ですとか乾パンですとか、これ3食とどれがいいですかということで、希望どおりに全部配っちゃいました。防災倉庫をつくって、防災倉庫には炊き出し用の道具であるとか、エルザの場合は手前に池がありますので、それを全部ポンプでろ過できて飲み水にできるという、そういう装置も今つくって、今度は地下にタンクがあるんですね、要は飲料水。昔のマンションは上に上げて降ろしてましたが、今は逆に下からくみ上げるのが普通ですので、それをそういうところからボタンでポンプが稼動して、外に結局蛇口で出せるように、消火栓じゃなく蛇口で出せるような、装置を今つくる予定です。

なおかつ、あのマンションの場合、幸いなことに10階ごとにポケットパークという公園があるんですね。その階ごとに小さい公園というか、公園といっても遊具がぼつんぼつんと、オープンスペースみたいところがあるんです。そこに今度は倉庫を置く予定です。そこでいろんなサバイバル道具ですとか、あのマンションは多分それはないと思うんですけども、ドアが開かなくなったときのためのドアを開ける道具ですとか、あと水とか医薬品等、あとトイレ。トイレも、あのマンションは多分傾いたり何だかんだで、生活できなくなるということはないと思っているんですね。

ただ、大体が絶対とまるはずですよ。ですから、水を自分であげていかなきゃいけないし、そのために少しはストックはありますが、大体はなくなるということで、10階ごとにある消火用の貯水槽を飲めるようにするとか、あとは今言ったその倉庫にトイレというか、男性もそうですけど、特に女性の方はああいう防災用の簡易トイレを嫌がると思うので、部屋の洋式のトイレに入れられるビニールというか簡易トイレがあるんですよ。その中に用を足して、閉じて置いておけると。簡易トイレのビニールみたいながあるので、それを今度買って、防災倉庫に全部入れちゃおうかと。

ですから、最終的には3日間か4日間はどうか生活できるかなというふうにはしようと思っています。そのころには、多分、市の方が機能して、どうにかなるかなと。

○池田委員

ということは、そういうことに対しては住んでいる方たちは積極的ですか。

○増田氏

全然誰も文句を言う方はいませんね。防災倉庫をつくったとしても、全然文句も言いませんし、そういう配ること及び今のそういうポケットパークとかに置くことはだれも何も文句を言いませんね。逆に、もうちょっと倉庫をでかくして、ポケットパークをつぶしてもいいんじゃないかと言う方がいますね。

○池田委員

逆に、その資金というのはどこからですか、各家庭からですか。

○増田氏

それは最終的には各家庭です。だから、自治会費じゃ賄えないので、管理費でやっちゃっています。ただ、自治会費の方も一応補助という形で、何か祭りをやったときのために残せるような形で、自治会費の方から管理組合の方に、余剰金があったので200万円ほど管理組合の方に出すと、それを抜かして今のところ1,800万円か、合計2,000万円かければ考えて成り立つだろうと。あとはあそこの場合、風がありますので、風力発電をつけちゃって、電気が切れたときに、防災倉庫とかイベント広場を照らす、どの程度明かり、電力が補えるかわからないですけども、風力発電をつけちゃおうと。それもそのぐらいで2,000万円ですみますので、それで今いろいろと考えています。そういうのも、防災に関しては、自分の任期中に全部やりたいことはつけちゃおうと思っています。

○池田委員

そうすると、今、基本的には私どもが一番、私もよく研究しているんですけど、いわゆるマンションに住んでいる比較的新しい市民の方が地域に何とかおつき合いいただきたいということをやっているんですが、今の形を見ると、行政も心配だから、まず自分たちの建物だけ、とりあえず住んでいるさっきの約1,800人だけは自分たちで共同で守ろうと、そのためには異論はないと。でも、例えば行政の方からこういうことをしてほしいとか、こういうことも一緒に手伝ってほしいとかと言うと、なかなか参加は、今、理事長さんの立場から行政との一体化といっても、なかなかこれは難しいですか。

○増田氏

難しいですね。ただ、先ほど言ったやつ、防災に関しては最終的には地域の方が来

られてもそれは配れないなど、識別できるわけじゃありませんし、ただ居住者を優先しますけども、周りの方も多分、配布とか水ですとか食料であるとか、それは人道上の立場から、それはしようがないと思います。

#### ○落合委員

自分たちマンション住民の共通利益のためにまとまっているということだと思っただけですけど、先程のお話は、マンション住民は地域の町会活動に対して全然理解がない、あるいは信頼していないというようなご紹介がありました。しかし、地震・水害などが発生したことを想像すると、場合によってはマンションの人がマンションを出て地域共通の避難所に逃げるといったような関係も出てくるかもしれないし、自分たちもそういう利益は持っているのですから、そういう認識を何かうまく持ってもらうないと、永久にマンションだけが独立王国みたいになって、地元と関係なく、勝手にさっさとやるみたいな形が続いていくように思われます。そういうのを打破しないと、永久に新住民のままだと思います。

逆に、そんなに利益にならないと思われることでも、その地域のいろいろな活動に、例えば、環境整備活動を町会がやっているときには自分たちも歩くところなんでしょうから参加するとか、こういう活動なんかにも積極的に出ていかないと、いつまでもコミュニケーションしないような感じがします。きれい事かもしれませんが。

#### ○増田氏

お知らせがくれば、こういうことをやっていますということは啓蒙というか掲示をしています。なおかつ、元郷2丁目の場合は、夏と歳末だったら防犯パトロールですか、あれを一応やりますよということで掲示したりして参加して、少ない人数ですけども、一応参加はしています。

#### ○落合委員

子どもたちの学校については、東京の方に進学・通学する人が多いんですか。

#### ○増田氏

地元の方が公立が多いですけども、やはり私立も何割だろうな、少なくとも2割は私立に行っていますね。小学校、下手したら幼稚園とか。

#### ○神尾委員

元郷駅はセーラー服のお嬢さんの手を引く奥様が多く見られるんじゃないかと思っただけです。

○増田氏

元郷はやはり多いと思いますね。南北線で真っ直ぐ行けるところが多いですから。逆に、そういう方だと、余計交流が生まれないのでね、東京へ行ってしまいますから。

○池田委員

あと、今、理事長さんは地元の学校の役員もやっていただいていますね。ことしの4月の学校の役員さんなんか見ると、エルザの方がかなり役員さんの中で、クラスの例えば教養部に入っていると、非常に学校の媒体ではすごく参加しているんですよ。

○増田氏

そうなんです。学校に関しては、みんなすごい、それは公立、私立関係なく、子どもに関してはやはり皆さん熱心だと思います。

○池田委員

その先、お子さんが小学校から中学校に行ったり、中学の場合は私立に例えば半分行ってしまうと。そこから地元とか学校とか、接触がなくなるんですよ。薄くなっちゃうんですね。普通、我々地元にいると、PTAの中から町会に目をつけられて、無理無理町会に押し込まれて、その後、何とかの世界じゃないけど、年輩になるまで、変な話、抜けられない、神尾さんなんか、その典型みたいですけど、そんな形になるんですが、なかなかマンションなんかだと、そこまではやってくれるんだけど、そこを卒業しちゃうと、何か地元とまた縁切れになっちゃうような感じですよ。

○増田氏

そうですね、子どものためにやっているというのが多いです。

○池田委員

地域じゃなくね。

○神尾委員

マンションの中で、では例えば私は英語教室をここの部屋で開くわとか、ピアノ教室とかというのが、あの中にありますか。

○増田氏

非公式であります。知り合いを集めてはやっていますけれども、一応それは組合としては一切関知しないというか、一応、私はそのために施設を使ってもいいと思っ

ているんですね。エルザの場合は、共有施設とかあるんですよ。スカイラウンジですとか、和室ですとか、音楽室とかクラフトルームとかあるんですけども、私は音楽室なんかは利用促進のために教室、営利目的でやってもいいと思っているんですけども、一応規約上は営利目的はだめとなっています。私はそれをやってもいいと思っているんですが、やはりそれはだめという方は多いですね。

ですから、実際に変えていって、教室をやっていたり、部屋でグランドピアノとか置いてあって、そういう音楽教室をやられている方は実際におります。

○池田委員

逆に、理事長さん、その場合にはマンション外、例えば近くの例えば地元で小学校に行っている、そのマンションには住んでいないお子さんでも中に入ってそういうことはできるのか、また逆に言うと、そういうものはちょっとというのか。

○増田氏

それは、こちらでは関知してないので。

○池田委員

感触としてはどうですか。

○増田氏

そうですね、多分います。マンション外でやっている子は多いみたいですね。

○林委員

1つ何か、エルザさんと外の地域社会とのかかわりのところで、いろんなイベントのことが出ていましたけれども、実は私の方は自然環境関係の行事やイベントなんかボランティアで行なって、それで荒川の体験学習、子どもたちの、夏休みですとか、実はエルザさんの方に何回か掲示をさせていただいたことがあったんですよ。お世話になりました、ありがとうございます。それで、それを見て、参加がございました。それで、やはりそういう触れ合いがあるんだなということで。

○増田氏

だから、行事関係とか、ああいうホームページとか、そういう1日に配る広報ですか、あれなんかそういうチラシとかあれば、送っていただければ掲示はするようにしていますので、あればだから参加される方も、マンションの方ですと、多分掲示もしてないところもあると思うので、知らずに終わっちゃっているところも多いと思います。

○池田委員

もう一ついいですか。よく私は思うんですけども、住所は川口市なんですね。ところが、川口市民という自覚が非常でないような、見ているとね。

○増田氏

都民ですよ。

○池田委員

現実には、そんな感じですよ。

○増田氏

それが、まあ分譲ですといいんですけども、賃貸だったら最悪ですね。賃貸の方は、特に言い方は悪いですけど転勤族が多いので、もう会社によっては二、三年ですから、長くても5年とかでどんどん転勤される方が多いみたいなので、賃貸は特に愛着心は薄いでしょうね。

○池田委員

そうすると、素朴な質問で、その人たちを市民的な感覚にさせるというのは非常に不可能ですか。

○増田氏

やはり賃貸でも、これだけ何十年もいるという保証があれば、多分、愛着というか、わいてくるんでしょうけども、結局あと何年いられるかわからない状態ですよ。その中で、下手したら、会社で多分サイクルというか決まっているところもあるかと思うんですけども、3年ですとか、2年とか決まっているところは多分愛着までは余裕がないというか、無理でしょうね。

○宮原委員

でも、割と市政というか、自分が選挙をしたときに感じたんですけど、無関心なんでしょうなと思って、エルザのエリアに行って選挙活動をしていたら、すごくたくさんの方が演説の場に思った以上にたくさんの方が足をとめたんですよ。だから、多分いろんなしがらみがなくて、逆にですね、本当に自分たちに必要、自分勝手だからこそ自分たちに必要な政治家はどの人なんだろうという判断をされるんだろうなって。

○増田氏

だから、そういう中でよく選挙活動をされる方は、やはり多いですよ。だから、

党という形に縛られないで。

○宮原委員

投票率もいいんですよね。投票率もいい上に、何かをすると、結構、人が来るでしょう。相当来るんですよね、見たこともないような方たちもね。だから、そのところが興味はあるんですね。

○神尾委員

文化レベルは高いですね。

○池田委員

もっと言うと、いわゆる地方選挙より国政のほうが投票がなお高いくらいですよね。意欲は感触でわかりますね。

○増田氏

転勤族の方はあちこち行かれていますので、今、言われたように、文化レベルは多分高いだろうと。

○宮原委員

何かそういう感覚を市政として欲しいですよね。

○増田氏

ですから、それを逆側に落としていただければいいんですけども、そこはないんですよ。

○池田委員

もったいないですね。

○神尾委員

奥様がたでも新聞とかをきちんと読んでいる方も多いし、情報の集め方もすごく上手なんだと思うんですよね。そして、情報の取捨選択をして、自分の家族にとって、我が子にとって、そして私にというような取捨選択、非常に上手になさるんだと思うし、お子様方、何か習い事が多そうだなって。

○増田氏

だから、習い事に行くにも結局どこがいいとか、まず、どこか行きたいんだけど、

どこがいいかと、そういう情報の検索というかはすごくたけていますね。

○神尾委員

子どもたちがマンション内のスペースとか近所の公園でがちゃがちゃ遊ぶというよりも、習い事友達みたいな、何か月曜のピアノの友達、火曜の英会話の友達、水曜の塾の友達みたいな感じで放課後を過ごしているような、何かそんな子どもたちの生活がひょっとしたらそんなようなのかなと思うんですけど。

○増田氏

それは確かにあります。

○宮原委員

何か、でもせつかくそれだけ高い意識の方たちにとって、地域住民との行き来が本当にあったら、どんなにかこっちの意識が高くなるかなと思いますよね。

○増田氏

あればいいとは思うんです。じゃ、それが何というような感じですよ。

○宮原委員

さっき話を聞いたときに、落合さんなんかはもっと入ってきてほしいと言うけど、さっきのお話だと、入ってこられたくないという場面があったと言っていました、今さらおられてくるなど、地域住民の方。だから、それじゃいけないですよ。

○増田氏

それは全員が全員ではないんでしょうけれども、やはりそういう方がおられるということですよ。

○宮原委員

受け入れる側も受け入れる意識をちゃんと持っていかないと。

○増田氏

あのマンションの場合、ちょっと建設のときにいろいろとありましたから、余計にだと思いますよ、他のマンションに比べたら。

○神尾委員

応募も地元ではなくて、都の公務員などを中心に応募したなんて。実は、私、東京

都内に住んでいる公務員だったので、いっぱいお手紙来ましたよ、買え買えって、買いませんでしたけど。

○林委員

エルザのほうにお住まいで、最近、川口住民の方で川口で生まれ育った方が他市の方と結婚して、それでエルザに住まわれるようになる若いカップルが、そうした例が出てきていますよね。そうした方々は、言ってみれば、川口市民であり、新住民の側面も持って、しかも地域でつながる可能性もあるような、私の知っている方で、そうした例も出てきているんですよね。そうすると、今、何か地域とのつながりなんかのお話が出ておりましたが、そうした層の方々が今後、何か動き方によってはプラスの方向、前向きな方向に、何か未来が明るい方向に行かないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○増田氏

そこは行くかどうかわからないけれども、これ手前みそになっちゃうんですが、一時、エルザの不動産価値というのがすごい下がったんですよ。大分下がっていたんですよ。自分が理事長になってから、結局ああいうライトアップを始めたり、ホームページを設けたり、あと住民の意識というか、何を望んでいるかというのを、あくまでそれは建物に関してですよ、交流とかそういうのじゃなくて、アンケートとって、そういうことをともに管理組合で活動をしていましたら、逆に今は下げどまりで、逆に少しずつ上がってきていると。それには、やはり今言われたように、ぜひとも住みたいと。だから、今は逆にエルザの売り出しの新聞のチラシって余りほとんど入ってないと思うんですけど、前はたくさん入っていましたが、今は逆にそういう状況になってきました。

ただ、今、林さんが言われたように、これからはだからそういうものを通じて、ホームページとかでも通じてエルザの紹介をしたりして、参加できるチャンスをふやしていったらいいなというふうに思っていますね。

○落合委員

マンションにお住まいの方は、いわゆる高学歴、高収入という方が多いのでしょうか。

○増田氏

多分それが傾向だと思いますよ。

○落合委員

川口市も結構、川口市に転入してきた方に対して情報提供するなど、努力されていますね。たしか川口市に移ってきた人に、地元でこういう素晴らしい活動をしている人がいますとか、こういう素晴らしい歴史とか自然があるとか、資料配布していたと思います。転入したての方は、初めはそんなところに関心がないのかもしれませんが。

○増田氏

やはり少し住み始めた中で、興味が出てくるという形だと思いますね。

○野村総研

そういった高収入の方は、当然、税金もたくさん払っていらっしゃるんで、まあまあそういう意味では市に貢献して、お金を払うから貢献しているというか何というか、何が言いたいかという、お金も払っているんで、通常は市政、市の政治だとか行政にも、自分はお金を払っているんだからということで、関心というか、それなりの御不満な点だとか、もっと変えてほしいと思う点もあるかと思うんですけど、別に個人的な見解でもいいんですけども、市の議会でもいいですし、行政でもいいんですけども、もっとこういうところを改善した方がいいんじゃないかとか、こういうところをもっと強化してほしいという点が何かありますでしょうか。

○増田氏

これは、川口市がどうのこうのという関係なのかな、結局、自分はたまたま関わりがあるので知っているんですけども、地元の市議さんがだれなのかわからないんですよ。自分はたまたま、よく知っているだけで、それも結局、市の中で小選挙区じゃないですけども、地域で結局出すということになればわかると思うんですけど、今の中で結局じゃどなたが地元というか、その市議さんなのか、まずわからないですよ。また、それもやっちゃっていいのかどうかということもありますので、本当はそれがわかれば一番いいんでしょうね。非常に愛着とってはおかしいけど、親近感というか。

○野村総研

市役所に対してはどうですか。さっきの防災の話だと、やっぱり市にも限界があるだろうから地元でという話がありましたけど。

○増田氏

それは川口市の問題じゃないですよ。実際、これだけの方が住んでいたときに、

何かがあれば、当然、市役所の人数と防災拠点だけでは無理というのは一目瞭然なので、だから自己防衛というか、自分たちでするしかないわけですから。

○神尾委員

防災マニュアルなんですけれども、炊き出しの何か物資がたくさんあるということですが。

○増田氏

物資というか、アルファ米は全部配っていますので。

○神尾委員

自分たちで、個々で身を守れという感じですか。

○増田氏

身を守れという、最終的にはそうなるかもわからないんですけど、結局、備蓄倉庫が限られちゃいますから、個人で持ってもらったら、結局こちらとしては助かることですよ。

○神尾委員

では、みんなで炊き出しをして、みんなで協力しようということですね。

○増田氏

最終的にはそこをねらっていますが、多分そこまでいくのには時間がかかると思っていますので、今すぐに地震が起きたら場所がないので、とりあえず今すぐできるものから始めています。ですから、よく私は言われたようなことをマンションで言っているんですけども、今はハードですよ。でも、もうそろそろ来年ぐらいはソフト、防災マニュアル、こういうケースの場合も、私が常にいるかどうか、いない場合はどうするとか、こういう昼間起きればそれだけ人数がいますけど、夜中に起きれば人数がいますけども、真っ昼間、女性と子どもしかいないときに起きたらどうするとか、今言われたような炊き出しとかを含めて、これからはソフト、人のことを、ソフトのことをどういうふうに行っていくかというのをやらなきゃいけないというふうに思っています。

○神尾委員

でも、顔もわからないし、手も出したくないという方々がいらっしゃるわけですよ。

○増田氏

そのときは、でも多分違いただろうと思います。ただ、怖いのは、そのときに自分だけよければというか、何か配るときだけ出てきて、炊き出しのときに出てこないとか、そういうのに参加されないとか、そういうのが怖いですね。あとマンションの中で、ちょっと余談になりますけど、火事とかというときに、消防班とかそういうのがあるんですけども、実際にそういうのがやはり会合で集まってくださいと言っても全然集まらないということもあったので、そうしたらボランティアを募って、自分がそれに参加しますよということで募った方がいいんじゃないかということになって、これも輪番制でなく、自分から意欲のある人を募集しています。

だから、消防、自衛隊、あとイコール炊き出しも含めて、そっちの方向に持っていくしかないのかなと。結局、やりたくない人に勝手に任せていて、出てこない方が困るんです、こっちは、いざというときに。そうすると、多い少ないはありますけども、こちらとしては手を出してくれる人が必要なので、今そういうことをやっています。ソフトと、そちらの方を重点にしようと思います。

○池田委員

そんな形でいくと、川口市にこういうことをしてほしいとか、そういう要望というのは余りないでしょうね、そうなってくると。例えば、理事会なんかはいわゆるマンションの中でこうしようとか、自分たちの生活環境をよくしようとかと話し合われるけれども、今住んでいる川口市に対してどういうことが出ますでしょうか。

○増田氏

自分のマンションではなくて、例えば他のマンションから聞く話だと、市役所の仕組みがよくわからないとか、できれば担当が、このマンションはだれだれですよと、市役所の担当が。その人に言えば、全部建築関係、何関係、全部通じるというような形にしてほしいという意見はよく聞きますね。でないと、結局、何々に関しては何々課に行ってください、何々に関しては何々課に行ってくださいということで、それは川口市だけじゃないんですけどね、それが大変なので、できればこのマンションの担当窓口はだれだれさんですよというふうにさせていただいたほうが、より市とかかわりやすいというか、という声はよく聞きますね。

○池田委員

ということは、私どもで言うと、地域の相談員というのが役所から必ず町会にきていて、町会の役員会に出てこられる人がいるんですよ。そういう形をとってもらえれば、多少ちがうんでしょうか。

○増田氏

おられるんでしょうけども、それがよくわからないというか、見えない。

○市

自治会ですから、相談員はおります。

○増田氏

いるんですが、うちの場合はその方を通してはいますけども、他のやはりマンションからだと、何かそういう方が見えないというか、わからないとか。

○市

自治会のマンションと町会の中にあるマンションの場合がありますよね。

○増田氏

自治会があるマンションでも、何かわからないというところもあったんですよ。

○市

ちなみに、管理組合というのは会議をどのぐらいのペースでやっているんですか。

○増田氏

管理組合は、月1回やることが決まっています。

○市

その管理組合には町会相談員は行きませんので。

○増田氏

そうですね。それは管理組合は独自の組織ですからね。

○市

管理組合イコール自治会じゃないですから。

○増田氏

自治会と管理組合の格は違いますので。

○池田委員

我々にはちょっとわからない、形態がね。理事長さんの場合、両方を経験している

わけですよ。地域のそういうお父さんとか。

○増田氏

だから、私は市役所の方とか、市議さんをはじめ、地元の町会とか見えているからいいんですけど、多分ほかのマンションとか新しいマンションは、ほとんどの人が地元の方ではないでしょうから余計そうでしょうね。下手したら、自分が建てたマンションで、昔何だったのか全然わからないというか。西口なんかですと、細野鉄工さんがやっていたけども、それがわからないとか。

○池田委員

歴史がわからないとかね。難しいですね。

○林委員

川口にはいろんなマンションがございますけれど、エルザさんのマンションとほかの川口市内のマンションとのいろんな意味での違いというのが1点目と、それからエルザさんの中でも先発の55のほうと32のほうがございますよね、後発で建てた。何かエルザの中で2つのマンションで何か違いが、いろんな意識とか、いろんな住んでいる人たちの中で、いろんな面で違いがあるのかどうかです。

○増田氏

意識は多分それほど変わらないと思うんですけども、ただ運営上、向こうの任期が短いんですね。それを言おうと思ったんですけども、私はたまたま任期に関係なく、立候補というか、続けてやっていますが、ほかのマンションの自治会及び管理組合というのが任期1年なんですね。そうすると、先ほど言ったように、やりたくてなった方というのはそのまま再任とかされるでしょうけど、要はやりたくなくて、輪番制で仕方なくやった方が多いです。特に、自治会の会長さんになると。そうすると、1年で何をやろうと思っても、多分これでは無理があると思います。

自分なんかも地元の方によく言われたのが、1年じゃ全然わからないよと、顔がわからない。ようやくあの人が何か大概よく出てくるなど、だれだったろうなど、あの人がエルザの会長らしいと。わかったころに1年たって、やめられちゃう。新しい人が来る。でも、ちゃんと引き継ぎがうまく成り立っていて、ちゃんと紹介していくような形になっていけばいいけれども、そうじゃない。ちょっと新しい方がなられたりすると、またそれを初めから。地域の方との交流が少ないというのは多分その辺に、マンションだけだったらいいんでしょうけども、地域の方と交流が少ないというのはこれもあるかと思っています。

今は32ですとか、ほかの知っている自治会を持っているマンションに言っているの

は、管理組合もいいかといったらそうでもないと思うんですけども、とりあえず自治会の方の会長だけは引き継ぎをうまくやるか、任期二、三年はどうにかならないのと。今、だから32はそれを持ちかけて、どうにかなりそうなんですね。でないと、結局、地元のところに出ても、全然わからないんですよ、結局。あの人だれなので終わっちゃいますので、多分それもあると思いますよね。

それで、町会長なんてもともと地元の有力者であったり、代々自営業をやられている方とか、皆さんそれなりにお顔が知れ渡っていますけども、マンションの結局輪番制の自治会長になると、いきなりあの人だれだろうという形ですから、地元とのかかわりが少ないという1つの理由にはなると思いますね。

#### ○落合委員

増田講師は、昔から川口市にお住まいでしたが、現在、マンションに入居されて、その役員をされていらっしゃる経歴をお持ちですが、その立場から、いわゆる「町会」についての功罪というか、功だけでもいいんですけども、どんな感じを持っていますか。

#### ○増田氏

難しいな。ちらっと聞いたというか、意見、話を聞いたときのことなんですけれども、若い方が盛んなところというのはそれなりだと思いますよ。要は、新しい住人の方が多いと、やはり運営がうまくいってないというところがありますけども、若い方が盛んなところは、やはり子ども会が盛んになる。子ども会が盛んなところの町会というのは、宣伝部会というかな、お父さん、お母さんのところも割かし盛んだと思うんですね。そういった今、言われたような意見も確かにまだまだありますよね。それは各町会のことだけでも、やはり時代とともに変化していくしかないのかなと。

やはり年輩の方が多いので、結局、昔からのしきたりで、確かにいいことは多いんでしょうけども、やはり今の時代の中で変えた方がいいんじゃないかというところもありますので、それをうまく取り入れていくかだと思います。それをうまくやっつけば、それなりに若い方も参加されると思います。昔ながらのやり方でずっとやっていると、やはり特に新しく入られた方というのは余計反発するでしょうね。

#### ○池田委員

先ほどからいろんな話が出ていますが、管理組合というのが必ずあって、それで自治会というのがありますよね。これエルザタワーなんかの場合、管理組合と自治会、これを一体、いわゆる管理組合の役員さんがイコール自治会の役員さんと、これを一体化するというのがなかなか難しいんですか。

○増田氏

やはり意識の中で難しいですね。

○池田委員

どんな感じで難しいんですか。

○増田氏

だから、結局、所詮一緒なんですけども、管理組合で結局自治会のことはできないよと言う方がいらっしゃるんですよ。結局、それはだめというか、いろんな先ほど言ったイベント事とか、要は自治会がやっていること、ボランティアのことも余計多いです。管理組合も要はボランティアですから、そっちの方でボランティアをやっているのに、なおかつ余計なボランティアはやりたくないという意識がやはり強いんです。

ですから、強制的にルール化していかないと、先ほど言ったような公募しても立候補者がいないので、半強制的にしていくしかないのかなと。

○池田委員

そうすると、大変失礼ですけど、増田理事長さんの場合はまれな例。複数年数で、理事会もやって自治会もやって、地域との交流をやったり、ということはやはりまだ現在はまれですね。

○増田氏

まれです。

○宮原委員

お祭りしなくても生きてはいけるわという、お祭りは東京の隅田川のときに見に行けばいいやというような。

○増田氏

うちのマンションでイベントをやっている、それでうるさいと警察に通報した人がいます。

○宮原委員

まさしくそれがすべてですね。

○池田委員

でも、大分長くやって、すごく時間をかけて素晴らしいイベントをやっていましたもんね。でも1年ぐらいでやめちゃいましたよね。

○増田氏

今、どうしようかなと考えていますけれども、何じゃこれという世界ですよ。

○神尾委員

上の方のスカイラウンジとか、あと畳の部屋とか、そういう共同のスペース、共通で使うスペースというのは今、何に主に使っているんですか、みんなで集まれるような。

○増田氏

要は、みんなというか、各世帯ですよ。何部屋かで集まるために使っている場合もありますし、あるお宅がパーティーするために使っている場合もあります。

○神尾委員

お客さんが来るときなどでしょうか。

○増田氏

結局、ゲストルームというか、宿泊施設もありますし、和室もだから夜使ってなければ、それを宿泊施設として利用することも、布団とか置いてありますので、お茶とか、普通におしゃべりもできますし、泊まることもできると。今、それを隣の32にも開放しようかなということはありません。うちの場合は、今まで内線で予約だったんですけども、今度、インターネットでも予約できるように改造して、ほとんどでき上がっているから、そうすれば、空いているときに限って32の人が使えるよというふうに、これは総会決議になっちゃうのか、理事会決議でいいのかわからないんですけど、今そういう話がありますね、交流を持つために。

○池田委員

理事長さん、全く脱線した質問なんですけど、55のラウンジがありますよね。あの予約率というのはどのぐらいなんですか。

○増田氏

季節によって違います。

○池田委員

夏なんかだと。

○増田氏

全然空いてないですね。花火のときはすごいですね。特に、あそこだと、オートレースの花火が真っ直ぐに見えて、あれ最初のころ、みんな知らないで、よくとれたんですけど。

○池田委員

もうとれないですか。

○増田氏

とれないというか、あとは戸田の花火。あと、これからのクリスマスの時期になるとすごいですね。要は幼稚園仲間とか小学校仲間とか呼んでパーティーとかやるので、その季節はすごいですね。

○池田委員

一番のオフはいつごろですか。

○増田氏

2月、3月とか、あの時期は、全然空いています。

○林委員

何か川口市内でマンションにお住まいの住民の方が、川口50万を超える人口のうちかなりの比率を、エルザさんだけではなくて、占めるようになってきましたよね。川口の本場に重要な構成の方々になるんじゃないかと。それで、ボランティアや市民の人たちで、そうした方々が川口市にソフトランディングできるように、支援ということで、ボランティアの市民団体があったり、それからNPO法人なんかで、そうしたマンションの管理組合だとか、そういったものを支援できたらというような、そうした動きもかなり出てきておりますよね。そうしたところで、エルザの住民の方々とか、マンションの住民の方々をうまくジョイントというか、活用とか、そういったのは今後いかがでしょうか。

○増田氏

それは可能だと思います。住人の方の意識次第ですけども、先ほど言った荒川探検ですか。

○林委員

それは別で、荒川探検のことではありません。マンションの住人の御支援とか、いわゆるマンションの住民の方々向けの支えということで、そうしたことを行っている市民グループであったり、NPO法人のマンションの管理組合、支える組織など、いろんなものができているかと思います。そういったものに対しては、皆さんのマンション、エルザの方々は、関心をお持ちになるのでしょうか。

○増田氏

内容次第でしょうね。やはり関心があるやつはあるでしょうけれども、関心がないものに関しては薄いと思いますよね。一応、だから管理組合関係のNPO関連は、一応いろいろとハガキは来ますね。あとのものは来たり来なかったりなので、そういうものはやはり広報活動をしていけば、それなりに関心は生まれるかとは思いますがね。

だから、あとはうちなんかだと、マンション同士のホームページがありますから、そういうのも少しリンクして、今、地域のスーパーとかはいろいろとホームページでリンクしているんですけども、やはりこれからは医療センターとか、でかいところはリンクして、医療センターや小児科ですとか、歯科ですとか、そういうのをリンクしたり、今言われたような川口市の活動とか、NPOを含めてですね、それもだから少しリンクしていく中で、どの程度の方が見ていくかどうかわからないんですけども、そういったところから紹介していくしかないのかなというふうに思っていますね。あとは本人次第というか、どういった関心を持たれるかということですけども。

○神尾委員

奥様方は、どちらかというと、御家庭の中にいらっしゃる、働いてない方が多そうな気がするんですよ。

○増田氏

そうですね。エルザは多いですね。

○神尾委員

だから、そういう方の知的レベルを満足させ、我が子の教育のためになるとしたら、勢いよく動かれますよね。

○増田氏

それこそ自然体験させるとか、こういうことを体験させたいというのがあれば、積極的だと思いますね。それがないと、やはり自分の家族及び子どもの利益にならないとなると、どの程度関心を持つかですね。

○神尾委員

そこかなと思うんですよね、地域とつながるとしたら。うちの子に蛍の点滅を見せてあげたいとか、ヤゴをつかませてあげたいとか、ウサギを抱っこできるようにさせてあげたいのかという、しかもそこに知的レベルを満足させる、文化的なものが高ければ、リアだろうとどこだろうと積極的にお出かけになるんですよね。英語力がつくとか、海外へ何か可能性が広がるとか。でも、たたら祭りの流しになると、絶対、参加はしないし、オートレースの何とか賞ぐらいじゃ動かないですよね。

ましてや、自分たちでチームをつくって、ママさんバスケとかママさんバレーとかをつくって、活動を起こすというところまではまだ成熟していないんですよね。でも、やりたい部分はあるんですよね。

○増田氏

その機会がなかなか近くにないということですかね。

○神尾委員

でも、おうちの中に皆さんいて、今はちっちゃい我が子のことをやっているけれども、そのうち子どものPTA活動なんかも体験しながら、女性の方々が人として成熟したときに、やっぱり助け合うって大事だとか、ボランティアはボケ封じになるぞとか、何か人のためになることってうれしいなって思うと、ちょっと変わってくるのかなというふうに。そして、御主人がそれに引っ張られていく形になれば、変わっていくのかな。

○増田氏

最終的には、ご主人までですよね、だんなまで。

○神尾委員

だんなさんも、大学でサークル活動を体験したりしている方はたくさんいるんですもんね。よし、おやじの会だなんてなると、また違ってくるのかなと。余りでもそういう何とかの会って好きそうじゃなさそうですけどね。

○林委員

エルザを初め、マンションにお住まいの方々の、そういう関心事、目を向けてくださりそうな、そういったところにフォーカスしながら、そこをうまくリンクさせて、川口市の地域の方とどういうふうに結びつけていくかということが、今後、今、神尾さんもおっしゃったようなことになってくる。

○増田氏

世代によって変わってくるので、お子さんが離れたところはあとは自分たちのことだけに関心がありますし、先ほど言った、子どもが学校に行っていると、そっちの方へ行くとか、自然体験とかに関心があるでしょうし、あと御家庭によって関心事が異なるので、それをすべて満足させるのは多分無理なので、子どもをとりあえず主体で考えていくしかないかなと、お子さんがいる家庭を主体に考えていくしかないのかなというのは思いますね。

○林委員

確かに、エルザに荒川体験学習の張らせていただいて、エルザの子どもたちが参加してくださって。

○神尾委員

エルザの子ども、中学、高校では外に出ていってしまう子が多いけれども、小学校時代の授業って、地域学習のすり込みがすごく多いんですよ、総合学習とか調べ学習とかで。ですから、エルザの小学校の子たちは、生徒会クラス、児童会クラスの子も多いと思うので、そういう子が地域学習、ちっちゃいときにすり込まれた地域学習とか、そういったものを将来育てる可能性は私はあるんじゃないかなと、戻ってきたとき、中高終わって、また大学が終わって戻ってきたときに、小さいときに過ごした川口への愛着というのを育てていくというのもきっとあると思います。

○増田氏

そうですね、今、元郷南小学校でそういったことを盛んにやっていますので、あの町探検ですとか、その地域に根ざしたことをやっていますので。

○神尾委員

また、中学校なんか行っても、子ども区議会とか、あんなのに出る子もいたりするし、だからその子たちが大きくなったときにまた変わるのかもしれないですね。何か、今、多摩地区とかいろんところで、大学生が自分の市政を調べる何かなんて載ってましたよね、新聞に。なんていうのをやるような、大学で経済学部とか商学部とか出てやる子たちは、もしかするとマンションの中の子なんかが、じゃ、おれたちが集まってやってみるか、なんているのかな。

だから、多摩市とかだって、もともとは狸がいたところなのに、今は何かそういう自治の先駆者的になっているのは、あれは農家の方々がいらしたところなんですけどね、もしかすると、川口でも今後のいろんな市政を10年、20年のスパンで考えていくと、高齢化した古いやり方の町会組織よりも、もっとそういうインターネットでつな

がるもののうち、個人の興味、関心が重なったときにはすごいエネルギーを発揮する、マンションの方々が大きく変えていくのかもしれない、そういう可能性はないわけじゃないですよ。だから、今はグループからの川口のやり方とは余りかかわりたくないぞという姿勢なんでしょうね。

○増田氏

そういった知識、何かちょっと話を聞くと、すごい方がいますからね。

○神尾委員

マニアックな方が多いですもんね。

○金井部会長

皆さんの方からひととおり活発なお話が聞けて、非常にためになったんじゃないかと思います。大体8時を予定しております、また、あとちょっと議題も幾つかあるので、まだ色々おありかと存じますが、増田さんからのお話はこれくらいにします。たいへん長い間、ありがとうございました。